

八戸盲学校・八戸聾学校 協働 相談支援センター通信

2023年

7月号

相談支援センターの活動



本校相談支援センターが、地域の幼稚園や小学校、中学校、高等学校等に在籍する障害のある幼児児童生徒を支援するために設置されて10年が経ちました。新型コロナウイルス感染症の規制が緩和され、活動もコロナ流行前に戻りつつあります。特別支援教育のセンター的機能も十分に発揮し、活動を進めていくよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センターの主な業務として、相談支援、三八地区特別支援連携協議会、地域支援の三つがあります。今回は、この中の三八地区特別支援連携協議会の活動を紹介します。

三八地区特別支援連携協議会の活動について

三八地区特別支援連携協議会は、発達障害を含む全ての障害のある幼児児童生徒とその保護者に対する教育相談を含め、特別支援学校の地域における特別支援教育のセンター的機能を活用し、教育、医療、保健、福祉の関係機関が連携し、一貫した支援体制のさらなる充実を図ることを目的としています。本校相談支援センターは協議会の活動を円滑に進めるための事務局主管校となっています。

三八地区特別支援連携協議会（本会及び研修会）

三八地区の連携機関は44機関です。この連携機関が一堂に集まり顔合わせをすることが連携の第一歩ということで、6月30日（金）八戸高等支援学校にて本会及び研修会を開催し、総勢48名が集まりました。

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 助教 米田政葉氏より「不登校・ひきこもりの予防と他職種協働による支援の在り方」という演題で講演をいただきました。参加された方からのアンケートを紹介します。



- ・改めてひきこもりについて学ぶことができた。なかなか中・高校のケースについてかかわることは少ないが、本日の講話を参考に支援していきたい。
- ・ひきこもりの背景や支援の在り方について、今回のご講演を通じて理解を深めることができ、大変参考になった。また、幼少期からの早期支援の重要性や居場所作りの大切さ等、大変勉強になった。
- ・多くのデータは興味深いものがあったが、ある程度進行してしまった生徒への手立て等もう少し詳しく教えていただけると明日からの実践の助けになってありがたい。
- ・不登校、ひきこもりの予防と支援について、たくさんのデータをもとにお話を伺うことができ、大変参考になった。
- ・頼れる大人、居場所作りなど、当事者の声から考えさせられた。本人の思いや声を大事にする、家族を支援するなど学校でできることを1つずつやっていきたいと思った。
- ・地域との連携が大切だと思われるし、学校の組織、先生方の働き方、フォロー体制を含め、変えていくことも必要ではないかと感じた。



第2回本会は、11月30日（木）に予定しています。どのような形での開催にするか検討中ですが、参加機関のみなさんと情報共有できることを楽しみにしています。

その他

青森県教育委員会は、今年度から「幼児教育の質的向上強化事業」に取り組んでいます。幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、関係する学校教育課、総務学事課及びこどもみらい課が連携を強化し、施設類型や公私立園の垣根を越え県内の幼児教育の質の向上を図ることが概要となっております。詳しくは、11月30日（木）第2回本会にて、こどもみらい課の担当から説明をしていただく予定です。

お知らせ

新型コロナウイルス感染症の規制緩和に伴い、教育相談も積極的に行っていきたいと考えております。まずは、電話で相談していただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。